

寒中見舞状

一筆石上いたし山殿
空しく砌子もあはれ
煙能目も度病し蘇
束なりら塔鐘五尾
縁手迄お廻し
以吸留下され山つを布
望しし至り片右町
口根跡お洞度新の
如くふり座山以上

以快披見いたしんを
さかひし之片つとん流
以健全ふ涉らせら礼
珠重ふ海しん相を
時常以病として堪
鐘玉尾以心ふけし礼
淡くす亦存しん敬
一と以礼まてしんを以
上